



# 経営パートナー



## クラウドチームを発足し、 中小企業の成長に貢献する

表紙 / 税理士法人福島会計 様

free を基盤としたコンサルティングで、  
未来志向型の  
コンサルティングを行う

スピリタスグループ  
渡辺 勇教 様 野原 健太郎 様

中小企業の経理人材不足の改善を目指して、  
free で行う経理代行  
「スマート経理」

税理士法人 M&T 三反田 純一郎 様

創業時の負担軽減と業務効率化をするために、  
free と連携し  
「創業応援パック」をリリース

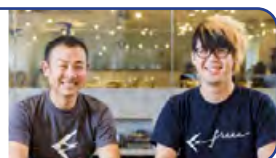
株式会社 りそな銀行 平山 泰行 様

特別対談

### クラウド申告 freee

申告まで一気通貫、freee の新たなステージが始まる。

CEO freee 株式会社 佐々木 大輔 × プロダクトマネージャー 坂本 登史文



## 「経営パートナー Vol.3」 発刊にあたって

時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

freeはリリース当初より、「スモールビジネスに携わるすべての人が、創造的な活動にフォーカスできるよう」というビジョンを掲げております。

そのため、freeは会計ソフトという枠にとどまらず、「スモールビジネスのBtoBプラットフォーム」という未来を目指して、プロダクト開発だけでなく、様々なパートナー企業様との連携にも積極的に取り組んでまいりました。

そうした背景のもと、昨年12月に金融機関と連携した新たなサービスの開発に向けて、金融機関専用アカウントをリリースし、複数の金融機関との連携及び協業に向けた検討を開始いたしました。

中小企業・個人事業主の方にとって、金融機関は会計事務所と同様に、最も重要なパートナーであり、資金繰りをはじめとした経営

課題を相談する機会が多く存在します。

そのため、free ユーザーの皆様が、金融機関からスムーズで利便性高く、経営課題の解決に直結する金融サービスを受けられるように、今後も金融機関との連携をより積極的にすすめていきたいと考えております。

本連携を通じて、freeユーザー・会計事務所・金融機関の3者がfreeを通じてシームレスに繋がることで、より大きな価値を創造していただけるものと自負しております。

認定アドバイザーの皆様には、ともにスモールビジネスを支えるパートナーとして、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。弊社も一層の努力をして皆様のご愛顧にお応えしていく所存でございます。

末筆ながら、ますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。発刊のご挨拶とさせていただきます。

free 株式会社 取締役 COO

東後 澄人



## INDEX

free 認定アドバイザープログラムのご案内	P.03
<b>INTERVIEW 01</b> 税理士法人福島会計 前例のない、幾多の困難を乗り越えて、クラウド会計の推進にチームで挑み続ける。	P.05
<b>INTERVIEW 02</b> 税理士法人 M&T 中小企業の経理人材不足の改善を目指して。freeで行う経理代行「スマート経理」	P.09
<b>INTERVIEW 03</b> スピリタスグループ freeの会計データを基盤としたコンサルティングで未来志向型の中小企業支援を行う。	P.11
<b>free 活用講座 Vol.1 給与計算編</b> ポライイト社会保険労務士法人 給与計算 free で、人事労務のバックオフィス業務を圧倒的に効率化。	P.13
「スキャンで経理」を使って領収書入力を効率化	P.15
<b>BACK OFFICE REPORT</b> 株式会社 離島キッチン 経理業務の効率化に向け、会計事務所と二人三脚。出張の多い弊社に、クラウド会計が大いに役立っています。	P.17
<b>PARTNERS INTERVIEW</b> 株式会社 りそな銀行 創業時の負担軽減と業務効率化をするために、free と連携し「創業応援バック」をリリース。	P.19
<b>特別対談</b> クラウド申告 free 申告まで一気通貫、free の新たなステージが始まる。	P.21
free 流マーケティング手法	P.25
金融機関 xfree パートナリシップ	P.26

▶ 抽選でオリジナルグッズが当たるアンケートはがきを同封

## free の料金プラン

free の料金プランはそれぞれのお客様ニーズに応じた機能をプランごとに搭載し、顧問先がお問い合わせいただける電話サポートなどもご用意しています。

### 法人向けプラン

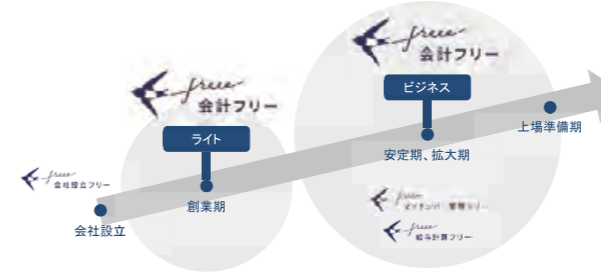
ビジネスの成長ステージに合わせ、最適なバックオフィス体制を、より幅広い中小企業様に free の価値をお届けします。

#### ビジネス

経理や経営者  
みんなでバックオフィスを効率化  
電話サポートも！

#### ライト

創業期！  
経営者が自分で  
初めての経理



ライト	ビジネス
1,980円/月(税抜) 19,800円/年(税抜)	3,980円/月(税抜) 39,800円/年(税抜)
こんな人におすすめ！ 創業期	こんな人におすすめ！ 安定期・拡大期
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な記帳機能</li> <li>基本的な決算機能</li> <li>基本的な請求書機能</li> <li>管理者含めメンバー3人で利用可能</li> <li>※4人目以降は月額税込300円/人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ライト全機能</li> <li>管理者含めメンバー3人で利用可能</li> <li>※4人目以降は月額税込300円/人</li> <li>権限管理・仕訳承認・仮締め</li> <li>部門別会計</li> <li>プロジェクト会計</li> <li>定期請求・合算請求</li> <li>資金繰りシミュレーション</li> <li>予実管理(開発予定)</li> <li>電子帳簿保存</li> <li>経費精算</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>メールサポート</li> <li>チャットサポート</li> <li>導入サポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メールサポート</li> <li>チャットサポート</li> <li>導入サポート</li> <li>電話サポート</li> </ul>

### 個人事業主向けプラン

個人事業主の目的や属性に合わせ、最適なバックオフィス体制を、より幅広い個人事業主様に free の価値をお届けします。

#### プレミアム

みんなで  
バックオフィスを効率化

#### スタンダード

請求/レシート管理...  
日々の経理業務を効率化  
経営状況を把握

#### スターター

とにかく確定申告をカンタン・ラクに！  
初心者も安心

スターター	スタンダード	プレミアム
980円/月(税抜) 9,800円/年(税抜)	1,980円/月(税抜) 19,800円/年(税抜)	3,980円/月(税抜) 39,800円/年(税抜)
こんな人におすすめ！ フリーランス、 不動産オーナー、 開業初年度	こんな人におすすめ！ 店舗経営、EC	こんな人におすすめ！ 複数店舗、 多くの従業員、 法人成り
<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な記帳機能</li> <li>基本的な決算機能</li> <li>確定申告機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スターター全機能</li> <li>+</li> <li>記帳の効率化機能</li> <li>請求業務効率化機能</li> <li>経営状況の把握機能</li> <li>消費税申告機能</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>スタンダード全機能</li> <li>+</li> <li>電子帳簿保存機能</li> <li>経費精算</li> <li>予実管理(開発予定)</li> <li>権限管理/仕訳承認機能</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>メールサポート</li> <li>チャットサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メールサポート</li> <li>チャットサポート</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>メールサポート</li> <li>チャットサポート</li> <li>導入サポート</li> <li>電話サポート</li> </ul>



## freee とともに価値を高め 顧問先を導くパートナーへ

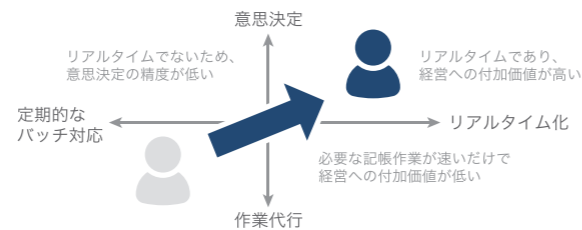
freee認定アドバイザープログラムは、3,300会計事務所が参加する業界唯一の「リアルタイム経営パートナー」支援プログラムです。



## freee 認定アドバイザープログラムで 顧問先の「リアルタイム経営パートナー」へ

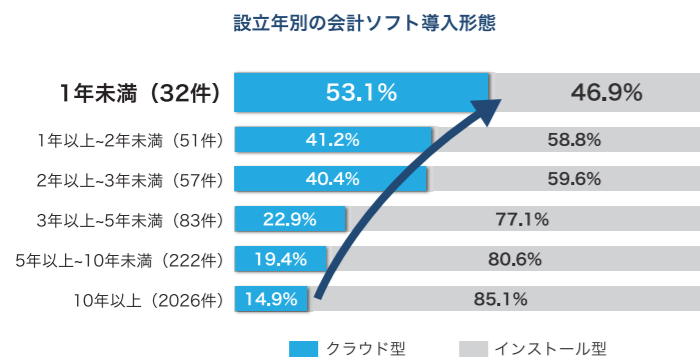
### リアルタイム経営パートナー

経営者とともに会計データのリアルタイム化を行い  
経営者の意思決定を支えるパートナー。



### 新設法人 ではクラウド会計ソフト の利用が主流に

1年未満の新設法人については、クラウド会計の利用率が半数を超えています。日々、機能がアップデートされ、使い勝手が向上することで、クラウド会計ソフトの利用が当たり前の中になってきました。



※MM総研調べ (2016年9月時点)

### クラウド会計ソフト シェア No.1 !!



※デジタルインファクト調べ (2016年2月時点)

## 「freee 認定アドバイザープログラム」の 3つの特徴

### 1. ビジネス拡大のお手伝い

認定アドバイザーになると、60万事業所ものfreee ユーザーが税理士さんを探す時に利用するアドバイザー検索ページに掲載出来ます。また、freeeからユーザーを紹介することも可能です。



### 2. 安心のサポート体制

会計事務所の業務に精通したスタッフがチャット・メールでタイムリーにご回答。専任のコンサルタントがビジネス支援の拡大をご支援。他社会計ソフトからの乗り換え支援もサポート。

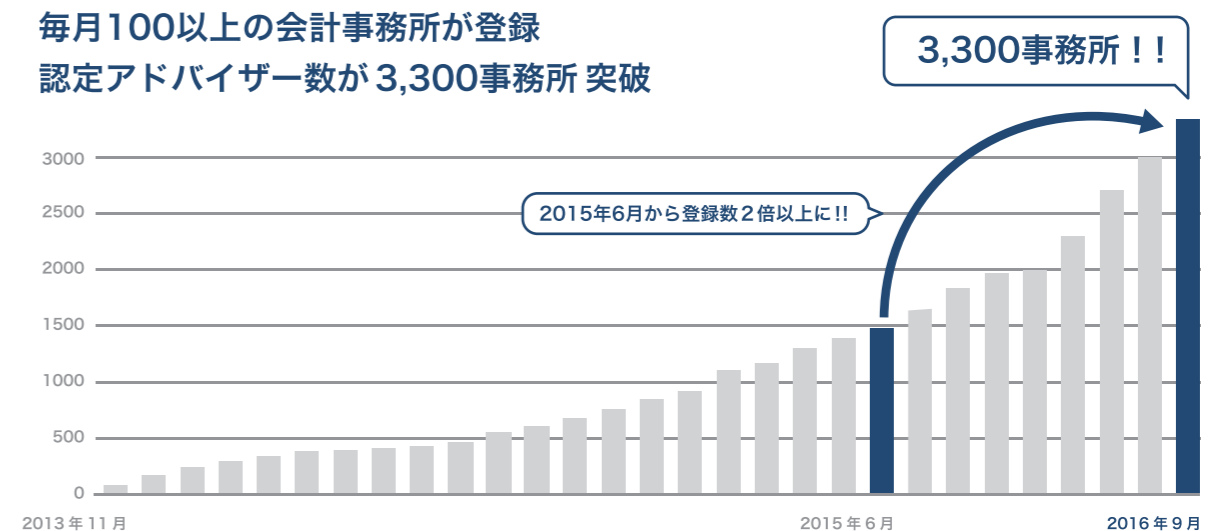


### 3. 充実の無料特典

認定アドバイザーランクに応じて、各種特典をご用意しております。

各種特典 (特典は順次拡大予定です)	認定	1つ星	2つ星	3つ星
会計freeeアドバイザーアカウント	✓	✓	✓	✓
給与freeeアドバイザーアカウント	✓	✓	✓	✓
認定アドバイザー検索ページへのご掲載	✓	✓	✓	✓
認定アドバイザー専用メールサポート	✓	✓	✓	✓
認定アドバイザー専用電話窓口	✓	✓	✓	✓
各種お役立ち資料のご提供	✓	✓	✓	✓
顧客の初期設定代行 (乗換設定)	✓	✓	✓	✓
freee ご利用の顧客紹介		✓	✓	✓
認定アドバイザー特別イベントにご招待			✓	✓
専任のコンサルタントによる各種サポート			✓	✓
イベント集客支援 (facebookやtwitterでの集客支援)				✓
事例資料の作成支援				✓

### 毎月100以上の会計事務所が登録 認定アドバイザー数が3,300事務所突破



INTERVIEW  
**01**  
SPECIAL  
INTERVIEW

## 前例のない、幾多の困難を乗り越えて、 クラウド会計の推進にチームで挑み続ける。

interview by free 



福島会計は、IT やクラウドを活用して中小企業のリソース不足や、業務改善、経営課題の解決を図るべく、異業種からの人材を加えて社内クラウドチームを結成。試行錯誤を繰り返しながら、会計業界を先駆けています。

### リリース当初から free を活用

**田上様**：わたしはもともと監査法人出身です。この業界に入って一番最初に感じたことは、重複作業の多さでした。監査法人時代に内部統制を見てきた経験があるため、業務と会計が分断されていることに違和感を感じていました。例えば請求書の作成作業と、それに関する仕訳の作成作業が二重で発生しており、顧問

先と会計事務所とで重複作業をしている現場が散見されたのです。中小企業はそういうものなのか、でも何か解決できたらいいの、そう思っていたところ、2013年にfreeがリリースされました。freeが出た当初は、ネットバンキングとつながり、情報が入ってきて、それはもう画期的。たまたま利用してみたいというお客様がいらっしまったため、すぐに認定アドバイザーとして登録し、利用し始めました。ところが、使ってみたら、これもできない、あれもできない。ネットバンキングの情報を取り込めるのはすごい、が、当時は決算書も出なければ、請求書もありません。当時はfreeで入力したデータをCSVで落として、既存の会計ソフトに入れるというやり方だった

ので、手間はトータルでは変わりませんでした。しかし、何よりもお客様が使いたいてくださったこともあって、試行錯誤しながら、根気よく使い続けることが出来ました。利用し始めてからこの3年間で、freeの機能はどんどん改善していきました。今では自信を持ってお客様に提案出来るまでに成長し、その開発スピードの速さは本当にすごいと思っています。

**福島様**：長くこの業界にいると当たり前になってしまっていることがあります。それは、会計事務所側の目線のみで、お客様にサービスを押し付けてしまうということです。それだと、提供するサービスとお客様のニーズにずれがあっても気づかないかもしれません。その点、freeはリリース当初から

完全にユーザー目線で、いままでの会計ソフトとは開発コンセプトが全く違っていました。お客様に会計事務所のサービスを押し付けるのではなく、freeを使うことでお客様自身の業務効率を高められれば、経営資源の足りない中小企業を一社でも多く成長させられるのではないかと思います。

### ニーズはあるのに、、、 たったひとりのクラウド推進

**田上様**：お客様が何を求めている、どういうところに困っているかを掘り下げていった結果、freeの開発コンセプトや、機能がピタッとはまりました。そして実際にサービスを提供した結果、お客様のニーズがあり、付加価値も提供できることがわかったため、事業化できるように工夫していこうということになったわけです。クラウドチームができる以前、わたしはひとりでクラウド会計を推進していました。クラウドに対するニーズがお客様にとってもあることがわかったものの、当初はそれを推進するために事務所内の人を巻き込むことが出来ませんでした。クラウド会計の良さを、お客様以前に、社内になかなか伝えることができなかったからです。一般的に、クラウド会計は、従来のやり方に慣れている会計事務所のスタッフには抵抗があります。加えて、わたしが外から来て経営側の立場だったこと、会計事務所ではなく監査法人出身だったこともあって、現場のスタッフとやや距離があったような気がし

ます。法改正があると、ソフトを買い換えなければならない問題が必ず起きます。freeが絶対いいとわかっていたお客様が何件かいらっしまったので、その買い替えタイミングで導入を提案しようと考えていました。ひとりで推進するのは物理的に限界がありましたから、それを担当スタッフに伝えていたわけですが、うまく連携が取れずに、導入機会を逃してしまったこともあり。導入のタイミングを逃すと次に提案できるのはかなり先になってしまうので、今後どう進めていくべきか、かなり悩んだ時期もありました。

### 自計化推進で風向きが変わる

**田上様**：事務所としてもっとクラウドを浸透させるためには、誰かを巻き込まないといけない。そう強く考えるようになりました。福島会計では、もともとプロジェクトごとにチーム制を敷いていましたので、チームとしてクラウドを推進し、勉強し、研究できるクラウドチームの立ち上げを目指そうと考えました。

**福島様**：クラウドチームができる以前に、自計化推進のチームがありました。福島会計がお客様にとっての経営パートナーになるという思いで事務所が動いた中で、リアルタイムで会計の数値が出るようにして、経営者がタイムリーな経営判断ができるようにという目的を掲げて結成されたチームでした。しかし、実際のところは、お客様の業務負担が多くなってし



まい、発生主義には程遠い中途半端な状態で、あまりうまくいきませんでした。

**田上様**：クラウド化により効率化した時間を使って、お客様のためにコンサルティングを行いたいとも言いつけてきました。しかし、決算の時にバーッと数字を固めるようなやり方をしていたら、いつまで経ってもコンサルティングなんてできません。まずは自計化なのか、記帳代行なのか、方法はなんであれ、もう一步上を目指すためにはリアルタイムで数字を出すことは絶対条件でした。

**福島様**：ただ自計化しようということでは、会計事務所の仕事が減るのだから、その分報酬安くしてくれるんじゃない？という議論になってしまいます。しかし、業務改善、バックオフィスの最適化という視点で切り込めば、決して自分たちの顧問料が減ることはありません。業務効率化により生まれた時間でコンサルティングというか、これから先の未来の話ができるよう付加価値を高める。社長だって過去の話をするよりも未来の話をするほうが楽しいし、前向きです。クラウド会計の良さは、経営者にとって絶対必要な、発生主義でのリアルタイムな数字の把握を可能にすることでしたから、そこからクラウド会計で自計化しようという流れに変わりました。こうして、彼女を中心に、クラウドチームを結成することになったのです。





## クラウドチーム発足 道なき道を切り拓く

**田上様**：今までひとりでクラウド会計を推進してきたので、チームで推進できることが、わたしとしてはうれしくて、ありがたくて。クラウドチームが結成され、現場のスタッフもいっしょに参加しているので、スタッフの反応も、事務所の雰囲気も変わってきました。なぜ、クラウドで自計化ができるようになったかという、freee の場合は、現場での業務と会計が全て繋がっているからです。請求書を作成すると、売掛が立つところまで一貫通で行えます。その他にも経費精算を承認すると、自動的に未払の仕訳が出来上がり支払依頼も同時に行うことが出来ます。このように業務と会計が繋がったことで、なかなか上手く運用出来なかった、発生主義を前提とした自計化が出来るようになったのです。

**小島様**：チームができたとはいえ課題はまだありました。最初のうちは、クラウド会計を導入しているお客様が少なかったため、会計事務所内でも良さが理解されませんでしたから、まずは良さを体感できる、認知できるところまで持っていくことに苦労しました。

**田上様**：クラウド会計の良さは、経営者にとって絶対必要な、発生主義でのリアルタイムな数字の把握を可能にすることです。freee を入れることで、お客様はもちろん、こちら側も効率化ができます。反面、会計事務所がラクになるだけじゃないの、と、導入価値を誤解されることも多々ありました。ただラクになるため

だけに入れるというロジックでは、なかなか価値を感じてもらえません。導入による付加価値をいかに具体的に伝えるか、それは今でも苦労している部分です。また、今でこそ経験値が貯まりましたが、当初は前例がなく、定形のモノを売るわけではありませんから、フィーの設定にも苦労しました。今でも試行錯誤はありますが、初めから強気でいくわけにもいかず、最初に安くやりすぎってしまったのは反省すべき点です。

## 組織が付加価値をさらに高める

**田上様**：チームを結成してからここ1年で、freee を導入していただいた新規、既存のお客様が劇的に増えました。freee の利用を前提とした、高単価のバックオフィス改善のコンサルティング案件を受注したこともあります。どういうお客様に合うのかをしっかりと分析し、アプローチ方法を検討し、チームとしてしっかりと戦略を立てていることが勝因だと思っています。freee の機能改善やテクノロジーの進歩は日進月歩で



す。今までは、新機能は自分で試すよりありませんでした。しかしチームであれば、誰かが試してシェアしたり、報告し合ったり、そうしたキャッチアップも素早く、効率的に行えるようになりました。わたしひとりだとできなかったことも、現場の目線でやってくれるメンバーが加わったことでできるようになり、視野も広がりました。今では事務所の中で、クラウド会計のメリットが浸透し、freee が向いているお客様事例を、事務所内で共有し合うようになるまで成長しました。

**中谷様**：クラウドチームですから、最先端のものを使っていこうよ、という意識があります。3人のチャットグループがあって、新機能が出ると出たよとアナウンスし、Google スプレッドシートを使って to do リストを作ったり。こうしたことは今まで事務所では行っていませんでしたから、クラウドチーム以外のスタッフにも波及効果が及んでいます。

**小島様**：わたしはマニュアルチームにも所属し、中谷は資産税チームにも所属していますが、クラウドチームでのやり方は、別のチームにもいい影響を与えています。たとえば、to do 管理ができるようになったり、フワツとしていた結論で終わっていた会議をちゃんと落とし込みまでできるようになったり、といった具合です。

**田上様**：わたしたちがしていることは、会計業界の中でも、最先端のことだと自負しています。会計業界の最先端をこの3人で牽引しているんだ、くらいの気概を持って、福島会計としてさらにどういう良いサービスができるのかということを考えています。

## 今後の展望

**福島様**：freee には、経営者側のユーザー目線を持ち続けてもらって、ERP ソフトとして価値を提供し続けて欲しいと思います。わたしたちは、過去会計ではなくて、未来会計、管理会計のほうに進めていって、一社でも多く成長させたい、黒字化させたいという思いで支援したいと思います。

**田上様**：AI 時代の会計を考えたとき、管理会計がキーになると思っています。数字をどう使うのか、システムをどう使うのか、その数字を使うためにシステムをどう整備するのか。入口の部分と出口の部分のいかに押さえられるかが重要だと思います。入口は業務改善、freee の導入支援、出口は経営コンサルティング、財務コンサルティングだと思いますから、そちらに軸を置くつもりです。入口は経験を積んでベースが整ってきているので、出口のところで数字を使って、どう経営者と話をしていくか、といった点に力を入れていきたいと思っています。記帳代行も行っていますが、今お客様のニーズがあるからやっているだけであって、今後5年後、10年後には、入口と出口をちゃんとできるところが生き残ると思います。どちらかだけではだめで、どちらもしっかりできる。今後はそこにフォーカスしながら、過渡期のニーズもしっかりとらえていこうと考えています。



## 税理士法人福島会計

所在地：東京都千代田区神田駿河台3-6-1 菱和ビルディング3F  
電話：03-3526-2636

資金繰りや融資の問題、助成金・補助金の問題、中長期的な利益獲得の為の会社設立の問題などに幅広く取り組んでいる。また、クラウド会計といった IT に強く経営コンサルティングも積極的に行っている。

## 〈クラウドチームの freee イチオシ機能〉

### 中谷様のイチオシ機能：タグ機能からのクロス集計

他の会計ソフトでは補助科目でしか集計できませんが、freee のタグ機能を使えば、メモタグや、部門タグや、品目タグでも集計でき、縦横でいろいろな集計ができます。クロス集計もできますから、分析をするときに非常に役立っています。

### 小島様のイチオシ機能：CSV インポート

現金出納帳や立替経費は、お客様がエクセルで作っていた場合、従来の会計ソフトではエクセルのシートを見ながら1件1件手入力でした。freee だと、エクセルの元データをもらえれば、それを簡単に編集するだけで、50件、100件あってもCSVに落として簡単に入れられます。これで、作業は大幅に減らせます。

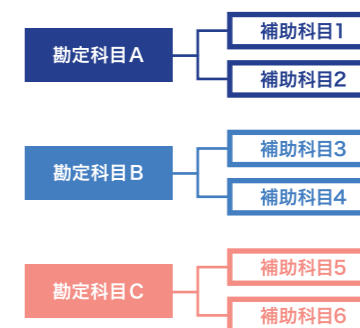
### 田上様のイチオシ機能：タグ機能

タグ機能は、経営者の方がどの数字を見たいかによって、いかようにでも工夫できる機能です。タグを増やしすぎずにバランスを見ながら、手間をかけすぎず、分析しやすいように。タグ機能をうまく設定できるかが、会計事務所の付加価値を出せるかどうかのポイントです。タグ機能は活かすも殺すも会計事務所次第だと思います。

## 便利なタグ機能

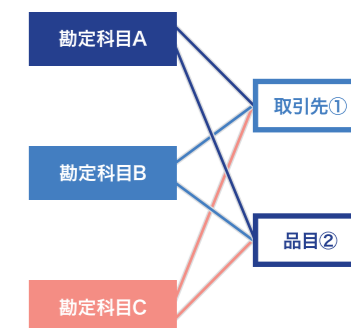
通常、勘定科目ごとに取引は集計されますが、freee では補助科目の代わりに、「取引先」「部門」「品目」「メモタグ」という情報を付与することができます。これにより、勘定科目に関係なく部門や品目ごとに金額を集計したり、分析を行うことが可能になります。

### 補助科目の場合



勘定科目ごとしか集計できない。

### freee のタグ機能を使った場合



従来の補助科目の役割を果たし、さらに任意で柔軟な分析が可能。



税理士法人 M&T  
代表社員 税理士  
**三反田 純一郎 様**



税理士法人 M&T  
コンサルティングチーム  
経理サービス部 マネジャー  
**鳴海 暁彦 様**



税理士法人 M&T  
コンサルティングチーム  
経理・不動産サービス部 マネジャー  
**二口 大介 様**

INTERVIEW  
**02**

**経理代行を  
free で始めたきっかけ**

**三反田様**：3年ほど前のことです。お客様である中小企業の優秀な経理の人材がどんどん退職し、会計処理をする人間が減ってきていました。それなのに、若い経理の人材が育っていない、入社してこないという問題が顕著になりました。そこでいろいろと試行錯誤をした結果、お客様のバックオフィス業務全般を我々会計事務所側で代行することになったのです。その際に、多くのお客様から感謝いただき、経理代行のニーズがあることを強く感じました。そんな時に free の存在を知りました。free はクラウドであるという利便性のみならず、バックオフィス業務全般をカバーする、中小企業向け ERP ソフトとしての機能を多く持っていました。経理代行サービスはバックオフィス業務作業全てを会計事務所側で代行するため、1つのソフトで一気通貫してバックオフィス業務を行うことが出来るという点は非常に魅力があります。請求書を作成すれば売掛金の仕訳が出来る、買掛金を登録しておけばワンクリックで振込用の CSV ファイルが作

**中小企業の経理人材不足の改善を目指して。  
free で行う経理代行「スマート経理」**

interview by free

成出来る等、経理代行にぴったりのソフトだと強く感じました。そこで、従来から実施していた経理代行サービスを完全クラウド化させた「スマート経理」という経理代行サービスを立ち上げることになったのです。

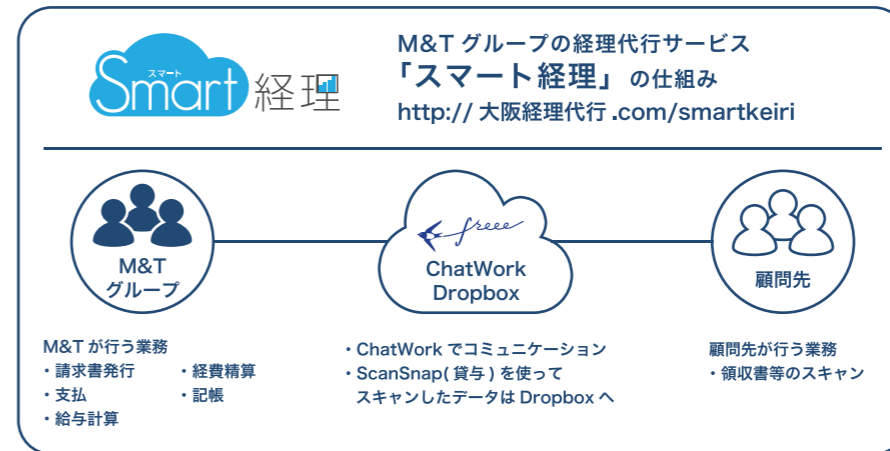
**「スマート経理」は  
シンプルなオペレーション**

**三反田様**：「スマート経理」は、ほぼクラウドで完結させる形でスタートさせました。当時ちょうど電子帳簿保存の改正が見えてきた時期だったので、ペーパーレスと一挙両得と訴求できると考え、経理の人材が採れない、育たない、採用しても安定しないといった課題を持つお客様を対象を絞って働きかけました。

**鳴海様**：free を使う以前は、経理をわたしたちがある程度スリム化させて、週2日だけお客様のもとへ行って経理業務を完結させていました。今まではお客様のオリジナルの経理のやり方を極力踏襲していましたが、free の機能をフル活用することで経理代行業務をパッケージ化することができました。free にしてからは、お客様のもとへ行くことなく経理業

務を完結させるので工数は半分以下になっています。「スマート経理」は、中小企業の営業事務以外のバックオフィス業務全て（請求書発行、支払業務、給与計算、経費精算、記帳）を請け負います。あくまで訪問しないという条件で請け負いますので、free、ChatWork、Dropboxといったクラウドサービスを使って業務を遂行します。お客様にやっていただくことは、領収書などを ScanSnap でスキャンして、そのデータを Dropbox に放り込んでもらうだけです。あとは、こちらが Dropbox にたまってきたデータをさばっていく感じです。何かあった場合には、チャットワークを使ってお客様とのコミュニケーションを行います。お客様にとっては、領収書を ScanSnap で取り込むだけという非常にシンプルな作業になるため、ストレスなく続けていただくことが出来ます。また合わせてスキャナ保存申請代行のサポートも行います。スマート経理はペーパーレスを前提としていますので、経理代行と合わせて付加価値業務になると考えています。

**二口様**：なお領収書を取り込んでもらうだけではコミュニケーションが不十分な業務に関しては、あらかじめお客様と情



報共有のルールを決めることがコツです。スマート経理では請求書発行も代行しますので、どこにいくら請求を出すのか、営業の方とやり取りしないと把握できません。一方、請求書の発行は発行先と金額と摘要さえわかればあとは単純作業なので、そのやり取りの方法さえ決めていけば問題ありません。事前にクラウドのスプレッドシートを共有しておき、そちらへ営業担当者に根幹情報を入力しておいてもらう仕組みを作れば意外とシンプルです。請求書の発送も、free ならワンクリックで、しかも 150 円で送れるようになったので、その後の作業の工数もかかりません。記帳の面でも、free は請求書の作成を行うと同時に、売掛金の仕訳が出来上がりますので非常に助かっています。また振込代行に関しても、以前までは請求書が来る→振込データを別途作って実際に振り込む→振込の仕訳を記帳するという業務の流れでしたが、free では請求書が

来た際に買掛金の取引を入力しておけば、自動的に全銀行で共通の総合振込ファイルを作成することが出来ます。作成した総合振込ファイルをインターネットバンキングにインポートするだけで、振込作業が完了しますので非常に効率的な振込代行も行うことが可能です。**三反田様**：当然、古い営業の方が苦情を言ってきたり、従業員が給与明細を紙でくれと言ってきたり、軋轢が生じることもありますが、従業員の方にとっていかに身近な所でメリットがあるかを提案することで、受け入れてもらうことが可能です。オペレーションはとにかくシンプル。free はある意味、中小企業の経理業務のテンプレートを提供しているのだと思います。free を通して経理作業を行うことで、作業が属人的にならないのもいいですね。今までの経理の機能の大事な部分は維持できていますし、当然、税務調査にも耐えられます。資金繰りや財務などはオプションとして受けること



もできますから問題ないと思います。

**今後の展望—  
「スマート経理」を通過点として  
さらなる社会貢献をめざす**

**三反田様**：今回の経理代行はひとつの取り組みです。日本の中小企業の生産性を上げるために、free のようなツールを使ってどこまで業務効率が改善できるか、効率化により生まれた時間に何が出来るか。それを考えることはわたしたちの楽しみです。時間を浮かせるだけ浮かせて顧問料が減ったら本末転倒ですから、先を見据えて、付加価値を高められる本質的なサービスとは何かを研究し始めています。経理は難しいというイメージが強いようですが、「スマート経理」を通じて、経理は簡単にできるということを広く社会に知ってもらいたいですね。中小企業の経理業務を助ける、会計処理をする人間を増やすことで、社会に貢献していきたいと思っています。

**税理士法人 M&T**

所在地：大阪府大阪市北区梅田 1-8-17  
大阪第一生命ビル 15 階  
電話：06-6442-7187

通常の税務顧問サービスの他、経理代行も積極的に  
行っている。また、不動産取引に関する税務コンサル  
ティング業務、企業オーナー及び不動産オーナー  
の節税・相続・事業承継対策などを得意としている。





株式会社スピリタス会計事務所  
代表取締役 公認会計士・税理士

渡辺 勇教 様

株式会社スピリタスコンサルティング  
代表取締役

野原 健太郎 様



## free の会計データを基盤とした コンサルティングで未来志向型の 中小企業支援を行う。

interview by free

### free との出会い

渡辺様：会計について勉強しないと、経理ができないのはおかしい。わたしは常々そう考えていました。簿記は素晴らしい学問ですが、そもそも貸方・借方という日本語自体がわかりにくいように、とても一般受けするものではありません。会計を専門に勉強してきていない方が会計をしなければならないにも関わらず、世の中には会計の知識がないと使えない会計ソフトばかりです。会計がわからない方のために簡単入力機能が用意されたものもありますが、結局は会計知識がベースです。そのミスマッチをうまく解消するためには、極力、直感的に入力しやすい会計ソフトがあるべきとの想いが、わたしの根底にはありました。そして、出会ったのが free だったのです。

### free 導入支援から 高付加価値のコンサルティングへ

渡辺様：もともと開業当初より、顧問料を前提とせずに中小企業の free 導入支援をしてきました。しかし、結局やっていることは、free 導入支援にとどまらない業務効率の改善でした。そして、それはコンサルティングの 1 つの切り口だったことに気づいたのです。また、ちゃんと会社の業務フロー全体を理解して、それがどう数字につながるかまでイメージできるお客様がいないことに気づきました。そしてなにより、中小企業の方は、管理をどこまでしたら良いかをよくわかっていません。やらなければいけないと言われてはいるけど、何をやっていいのかわからない。やっているけれど、非効率な業務フローになっている。そんな

状況にありましたから、確実にこの分野でのクライアントのニーズがあるな、と感じました。クライアントのニーズの見極めをしっかりとらうと、これからは業務改善・業務効率化の改善ができていくか、というコンサルティングの切り口で free を使っていくことにしました。



### ニーズがあるのに なぜ会計事務所は応えないのか？

野原様：いまから 9 年くらい前、中小企業向けのコンサルティング業務を始めました。一般的に行われるコンサルティングとは、テーマを決めてスポットで行うものです。一方、経営パートナー的な位置づけで様々な課題に対処し対策を提案していくような、継続顧問型のコンサルティングを行うプレーヤーはほとんどいませんでした。わたしは、それを会計事務所がやっているものだとばかり思っていたのですが、そうではありませんでした。それを知った時私は、お客様の懐事情を全て知っているのに、なぜそこに手を付けられないのか不思議でした。しかし、実状は会計事務所も大変で、過去のデータをまとめるまでにすごく時間がかかり、期日までの資料作りに追われていることを知りました。今後の経営課題に向き合うとか、経営者との対話という、本来やりたいことに時間がほぼとれていなかったのです。だから、その部分は、ぼっかり空いていた。それなら、会計データを元にして、今後の対策などのコンサルテーションを複合的に行えばお客様のためになるのではないかと、そう考えたのが出発点です。しかし、中小企業はコンサルティングという怪しいイメージを持つことが多いので、コンサルタントが訪ねても財務データを出してはもらえません。欲しい情報、入り口の情報なのにもらえない。そのためにはどうしても会

計事務所の力が必要でした。最初は外部の方と協業していましたが、渡辺さんとともに、自社のグループ会社としてスピリタス会計事務所を設立したのです。

### コンサルティングに生きる free のメリット

渡辺様：free では、売掛レポートや買掛レポートをよく利用します。売掛レポートでは入金期日が過ぎている売掛金はないか、買掛レポートでは支払いが漏れている買掛金はないか、といったように債権債務の状態がひと目でわかるようになってきました。売掛レポートや買掛レポートは、まさに free 独自のレポートです。従来の会計ソフトにあったような、仕訳をもとに補助残高を集計するレポートではなく、未決済/決済、入金/出金期日を会計データとして付与する、という新しい考えが元になっているからこそ成立するものです。債権債務の情報は会計データと表裏一体ですので、free の中で一貫して債権債務管理が出来るということは、コンサルティングを行う上での付加価値となります。

野原様：基本的には会計データを元に、継続的に経営目標に向かって、社外参謀役として支援していくわけですが、コンサルティング側からしてみればとにかく早く会計データが欲しい。月次のデータがなければ早く会議ができないわけで

す。そうなるなるべく手をかけずに正確なデータを早期に取得したいということになるわけで、その点 free なら早く正確なデータが得られますから、これは大きなメリットです。

### 今後の展望— オモシロイ未来を創る

野原様：free は、中小企業のバックオフィス業務の改善支援をクラウドで行っていますが、わたしたちは「人海戦術」という泥臭いアプローチをしています。free をはじめとする、さまざまなクラウドのツールを武器として使いながら、バックオフィス機能を人的サービスとして提供する。基本的に、人対人で向き合うスタイルです。そして、会計だけでなく、マーケティング、情報システム、人事、経営戦略などを複合的にワンストップで提供することが、事業体としてわたしたちが目指す姿です。と、ここまで小難しいことを言いましたが、「オモシロイ未来を創る。」という理念のもと、仕事自体を面白くしたいと思っています。今日より明日が楽しくなるとか、先々面白い未来が来るんじゃないかと思えば、人間は自然とエネルギーが出ると思います。わたしたちもまた、面白いことを受ける側ではなく、創り出す存在、組織になりたいと思っています。



### スピリタスグループ

所在地：東京都文京区本郷 6-17-9 本郷網ビル 6 階  
電話：03-3868-0086

中小ベンチャー企業の「業績・資金の最大化」に貢献するために、クライアントの個々の状況やニーズに対応できるよう、クラウド会計支援サービス・経営財務コンサルティング・クラウド経営支援アプリ構築・マーケティング支援を提供している。



【Vol.1 給与計算編】

# 給与計算 freee で、人事労務のバックオフィス業務を圧倒的に効率化。

## ～給与計算 freee を使ってスムーズな年末調整作業を



## 給与計算 freee で年末調整を行うメリット



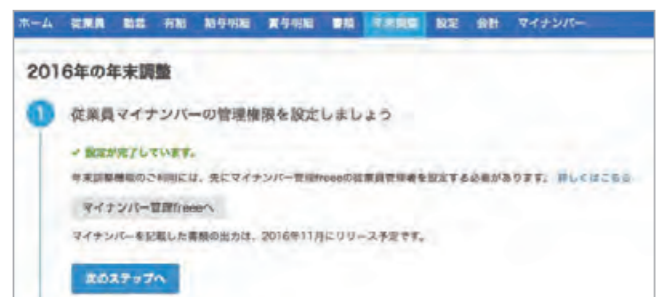
**榊様**：これから年末調整の繁忙期を迎えますが、事前準備の負担を軽減をしたり、構える必要がないことが給与計算 freee の一番のメリットだと思います。従来のやり方の場合、扶養控除等申告書と保険料控除申告書を各従業員へ配布して、記入事項について説明して理解してもらう必要がありました。従業員の方に、ここに記入してください、と細かく説明していました。しかし、給与計算 freee は直感的なインターフェイスになっているため、書類の記入方法について細かく説明したり、従業員の方が試行錯誤しながら書類を作成する、という手間をかなり省くことが可能だと思います。また、従来の方法ですと、書類の配布・回収・その後のやり取りに手間がかかっていましたが、給与計算 freee なら、ペーパーレスが実現されており、それが大幅に解消されます。

従業員の入社情報などを簡単に巻き取れるようになったことも大きなメリットです。今までは入社時に必要な各種情報をメールで依頼していましたが、抜け漏れが生じてしまうことは皆無ではありませんでした。しかし、入社時にこのインターフェイスに沿って入力してください、と従業員の方にお願すれば、それがなくなります。入社時の情報収集や社会保険・雇用保険等の手続は大変面倒です。freee では WEB 上で収集した情報をもとに、入社時に必要な提出書類を freee から PDF 出力することが可能です。給与計算 freee はインターフェイスがわかりやすいので、それ自体が、入力する従業員の理解を助けます。年末調整も同様で、手間なくスムーズに、抜け漏れのない申告書ができあがります。

給与計算のみに留まらず、人事・労務に関するバックオフィス業務をカバー



現在は、いろいろな働き方があって、必ずしもオフィスに集まって働かなくてもよくなっています。顧問先で、リモートワーク・在宅勤務に力を入れている会社様がありますが、オンラインにつながって完結できる給与計算 freee は、そのような新しい働き方に対しても合っています。給与計算 freee を使うことで、こうした新たな働き方、これからの組織づくりにも活かせるのではないのでしょうか。



## 今後の展望— 給与計算だけでなく、本来やりたかった人事制度の仕組みづくりにチャレンジ

**中村様**：わたしたちは、「社員から信頼される会社作りをサポートする」を理念に掲げています。給与計算や入退社等の手続きを正しく迅速に行うことや、管理職・人事担当者のスキルアップサポート、社員向けの勉強会の開催、タイムリーな情報提供等により、総合的に会社にとって有益なサービスを提供したいと考えています。正しい給与計算が、丸一日かかるよりは1時間でできたほうが、より他の業務に時間をとることができることは明白です。顧問先に対してやりたいことがあっても業務に追われてできていない場面が多々ありますので、freee を使って業務効率を図ることで、やりた

いと思った時に動ける時間をつくりだせればタイムリーなサポートができるようになります。仮にお客様が自社内で freee を使って給与計算をするにしても、お客様の業務負担は減りますので、長時間労働の減少やワークライフバランスの改善にもつながります。これからは給与計算そのものだけでなく、その他サポートを行うための私自身を含めた当社社員のスキルアップを図り、顧問先がより社員から信頼される会社となるように総合的なサポートを行うことで、顧問先の発展と、働く人の福祉向上を実現していきたいと考えています。

### Point 1

## 助成金申請に freee がオススメな理由

助成金申請に一番苦労するのは、助成金を申請する書類そのものの作成ではなく、添付資料として提出する「出勤簿」と「賃金台帳」です。その点、給与計算 freee は日々の勤怠を入力し、集計する機能を実装しており、さらに「出勤簿」と「賃金台帳」を自動作成出来る点は大きな強みです。これまでの給与計算ソフトでは、給与計算ソフト自体の機能として勤怠管理が備わっているものではなく、タイムカードなどの情報を手入力するか、システムを連結させてデータをインポートするしかありませんでした。この際に手間がかかったり、ミスが生じたりする危険性もあったのですが、給与計算 freee では、ここに入力したデータが給与計算に直結しているため、計算ミスなどにより、出勤簿と賃金台帳の不一致が生じることもありません。

また、リアルタイムで勤怠状況を確認出来る点もメリットです。たとえば、月 25 時間のみなし残業代を支給している会社で、残業時間が月 25 時間を超過してしまった場合、追加の残業代を支払わないまま助成金の申請をしてしまうと、未払い残業があるということで、助成金の不支給事由になってしまいます。

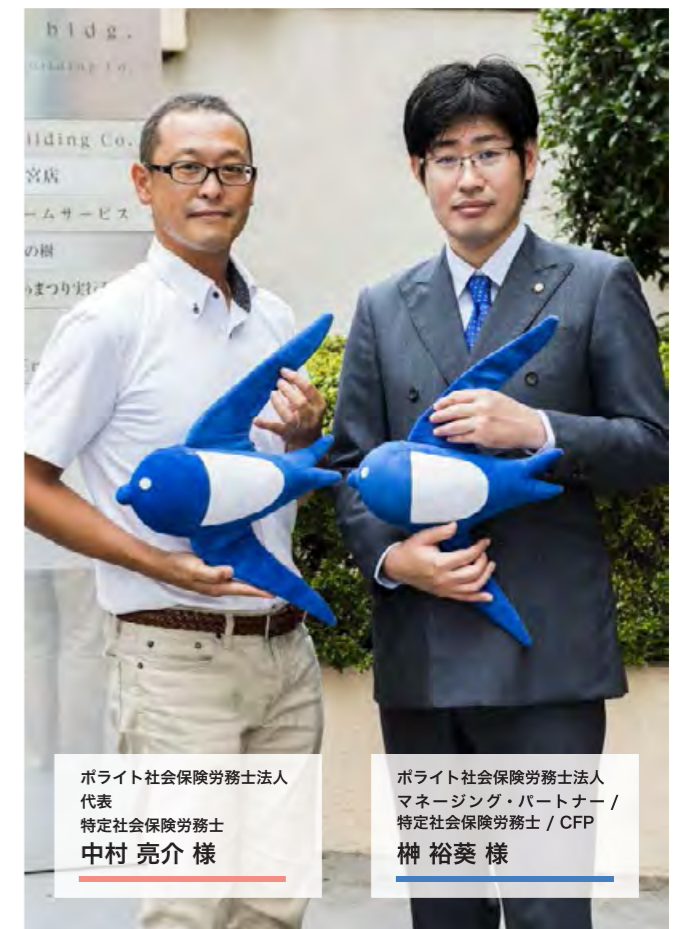
この点、freee では、その日までの残業時間の累計がリアルタイムで表示されるため、月の前半で残業をしすぎであれば、後半は抑えるように指示をしたりなど、リアルタイムで状況に応じた指示を出すことができます。勤怠を集計してからはじめて「しまった、残業をさせすぎってしまった」というようなことになるのを防ぐこともできるのです。これは、助成金の申請のみならず、日々の労務管理を適正に行うという観点からも非常に重要なことです。



### Point 2

## 会計事務所との連携をスムーズに

会計事務所と連携をする際、会計 freee と給与計算 freee に共有アカウントとしてログインすることで、シームレスに確認することができます。たとえば、年末調整の際には、入力し終わった情報をメールや郵便で会計事務所へ送っていたというのが従来の流れですが、共有アカウントであれば、相手にログインしてもらえば、相手にも確認できます。また、会計 freee と給与計算 freee は連動しており、給与明細を確定すれば、自動的に給与の仕訳が会計 freee 上で作成されます。そのため、例えば会計事務所側が給与の仕訳で確認したいことがあれば、給与計算 freee にログインして仕訳の元情報をすぐに確認出来るという利便性もあると思います。顧問先・会計事務所・社労士事務所が同じ画面を見ながらコミュニケーション出来るため、スムーズなやり取りを行うことが出来るようになりました。



ポライト社会保険労務士法人  
代表  
特定社会保険労務士  
**中村 亮介 様**

ポライト社会保険労務士法人  
マネージング・パートナー /  
特定社会保険労務士 / CFP  
**榊 裕英 様**

## ポライト社会保険労務士法人

所在地：埼玉県さいたま市大宮区大門町3-205ABCビル202  
電話：048-783-4920

「社員から信頼される会社作りをサポートする」を経営理念に掲げ、社員が安心して働くことができ、「この会社に入って良かった」と満足感を持ってもらえる職場環境をサポートしている。社員を大切にして、中長期的なビジョンを持って経営している会社を全力で応援している。



# 「スキャンで経理」を使って、

# 領収書入力を効率化！

証憑送付

証憑受領

証憑整理

出納帳入力

証憑保管

証憑参照

従来



顧問先が  
証憑を  
郵送する



会計事務所が  
証憑を  
受け取る



証憑を机に広げ  
日付や分類で  
整理する



証憑を確認しながら  
会計ソフトに  
入力する



証憑を紙に貼って  
バインダー等で  
保管する



整理された  
バインダーから  
証憑を探して  
参照する

freee



顧問先が証憑を freee に取り込む



freee 上で証憑を  
確認しながら入力



freee 上で仕訳と  
証憑が紐付く  
(原本は封筒に)

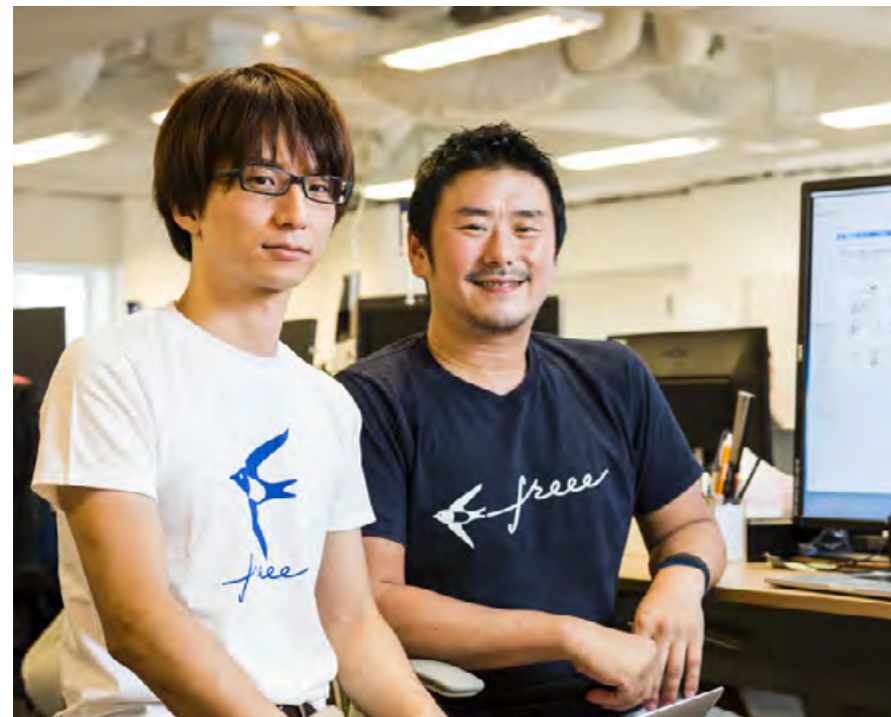


freee 上で  
元帳や仕訳帳から  
参照する

## 領収書作業を最速に！ 「スキャンで経理」 開発秘話

「スキャンで経理」開発の背景を教えてください。

関口：freee はオンラインバンキング・クレジットカードをご利用の方であれば「自動で経理」という機能で効率化していただくことが出来るのですが、どうしても現金支払といった領収書からの手入力が今ひとつ効率化出来ない点がありました。実際の会計事務所様の現場を拝見すると、机いっぱいに領収書を広げて、それを入力し、その後に綺麗にまとめ、本当に大変な作業だなとつくづく思ったんです。私としてもこの一連の作業を楽に出来るようになって欲しい、と強い想いを抱き、開発に至りました。



関口 聡介 (写真右) UX ディレクター

サン・マイクロシステムズ (現 ORACLE) にて Web マーケティング、その後 Google にて日本語検索トップページリニューアル、Google 日本語入力などの開発においてユーザーインターフェース設計を担当し、2014年2月より freee へ参画。現在は UX ディレクターとして主に税理士事務所向け機能の UX 改善に取り組んでいる。

大橋 巧 (写真左) エンジニア

偶然入ったスタートアップで Web エンジニアとしてのキャリアをスタートさせ、受託開発やソーシャルゲームの開発・運用を経験。その後サイバーエージェントを経て 2014 年 12 月より freee に入社し、質問に答えるだけで完成する確定申告機能の開発や、フロントエンドアーキテクチャの整備などをリード。サイバーエージェント時代に、若干 25 歳ながらフロントエンドチューニングエキスパート部門で第 3 位を獲得。



大橋：スキャンで経理を使うと入力作業はもちろんですが、実は領収書の整理といった一連の作業フロー全体が効率化される所がポイントだと思っています。通常だと、会計事務所がお客様から領収書を預かると、①それを綺麗に日付順や勘定科目順に仕分ける、②仕分けた領収書をみながら手入力する、③手入力が終わると領収書を日付順等に綺麗にファイリングする、という作業が必要だったかと思います。一方、スキャンで経理を使うことで、領収書をスキャナで取り込んでしまえば、画像を PC の画面で見ながら高速に入力することが出来るため、最初に行うはずの「領収書を綺麗に仕分ける」という作業が不要になります。また入力が終わったら、該当の仕訳と領収書はデータ上で紐付けが完了しているため、最後の「綺麗にファイリングする」とい

う作業も不要となります。そのため、入力が終わったら、大きめの封筒等に領収書を放り込むだけというフローにすることも可能です。このように、最初の仕分ける作業、最後の綺麗にファイリングする作業が不要になるケースが多いため、領収書にまつわる一連の作業が圧倒的に効率化されると自負しています。

「スキャンで経理」開発にあたり  
こだわったポイント等はありませんか？

関口：「スキャンで経理」は実際の会計事務所様の現場を綿密に観察し、徹底的にスピードにこだわり抜きました。開発キックオフ、開発中、リリース前の最終テストでも徹底的に現場目線を貫き、これでもかというくらい会計事務所現場の方のお声を生かすことで、圧倒的なスピードを実現することが出来ました。実は人間の目の動きにも着目しており、取り込んだ領収書の画像データと、入力画面とで目の動きに無駄がないように、画面の配置等にも微調整を加えています。大橋：領収書を ScanSnap で取り込むと、実は入力が行いやすいよう、画像サイズを自動で最適化させています。小さな領収書でも、大きな領収書でも、取り込ん

でいただければ freee が入力しやすいサイズに変換しますので、領収書の形状にご不安を抱く必要はありません。

「スキャンで経理」をこういったシーンに使って欲しいというものはありますか？

関口：記帳代行作業はもちろんのこと、経理代行にも是非ご利用いただきたいという気持ちがあります。経理代行では支払、請求といったように、従来の記帳代行作業からもう一歩踏み込んだサービスとなるため、どうしても入力作業への工数を省力化する必要があるかと思えます。スキャンで経理をご利用いただくと、今まで時間がかかっていた記帳部分への工数を削減出来るため、より付加価値の高い経理代行業務を行う余剰の時間が出来るのではないかと考えています。





# バックオフィスレポート《 飲食店編 》 株式会社 離島キッチン

## 経理業務の効率化に向け、会計事務所と二人三脚。 出張の多い弊社に、クラウド会計が大いに役立っています。

従業員 15 名、全国の「離島」の食文化を楽しめる飲食店で、どのように freee が利用されているのか。そのバックオフィス業務を調査してきました。

**佐藤様**：離島キッチンは、島の食材、食文化の背景にある「文化」「歴史」「物語」も一緒に楽しめるお店として、さまざまな島の食材やお料理を提供しています。また、レギュラーメニュー以外にも、毎月 1 名のスタッフが 1 つの島へ行き、「今月の島」として特別メニューを提供します。そのため出張が多く、出先から経理業務にアクセスでき、使いやすい freee を導入しました。出張先で経費の精算をすれば、戻ってからやらなくてもいいですね。そうした使い勝手の面でも freee が断然優れていました。

**辻原様**：それまで経理は未経験だったので、経理ソフトに触ったこともありませんでした。初めは分厚い東のプリントアウトされた freee のマニュアルを見て怯みましたが、それをパッと見てひとまず触ってみたら感覚的に使えました。日々の経理業務以外の部分では、レポートをよく見えています。月々の仕入がどれくらいで、どこの業者がいくらだとか、仕入が多いので特に支出レポートを見る人が多いです。また、以前わたしが島に行ったときのことですが、わかめの仕入を検討することになりました。その際、急ぎで過去のわかめの仕入金額を知る必要が生じたのですが、これも出先で確認できました。こんなときにもクラウドならではの利点を感じました。

### 今後の展望

**辻原様**：離島キッチンのスタッフは、それぞれが島に行き食材を仕入れたり、築地市場で島の魚を仕入れてきたり、バラバラに動いています。その領収書は、freee を使えるわたしや経理部のスタッフが預かって入力します。しかし、全員が freee を使えたら（簡単なので）、誰かが不在でも仕事が滞ることはないと思うので、まずは、経費精算だけでもそれぞれが行えるようにしたいです。また、会計事務所の福島会計さんからは、いろいろご提案をいただいているので、どんどんバックオフィス業務の効率向上に期待しています。

**佐藤様**：仕入が多い法人に便利な「総合振込ファイル」の作成など、まだまだ使いこなしていない機能があるということなので、使っていないものは全部試してみたいと思っています。また、これは希望ですが、たとえば試算表などをつくる際の目標値で、これ以上経費を使うといけないときにはアラートが出たり、数ヶ月後に資金繰りが悪化しそうな時には、税理士さんや金融機関から借入の仕組みが提供されるなど、freee の中でビジネスがすべて完結できるようになるといいなと思っています。



株式会社 離島キッチン  
代表取締役  
佐藤 喬 様

株式会社 離島キッチン  
ディレクター  
辻原 真由紀 様



### 株式会社 離島キッチン

所在地：東京都新宿区神楽坂 6-23 電話：03-6265-0368  
東京にいながら日本全国の離島の食材を味わうことが出来るお店。毎月今月の島を決め、毎月違う島の食材を提供している。その食の背景にある「文化」「歴史」「物語」も一緒に楽しめるようしている。

### POINT 1

## 「自動で経理」で帳簿付けを簡単に

**辻原様**：「自動で経理」では、あらかじめ登録しておいた未決済の売掛金・買掛金を消し込んでいます。また日々の売上には、現金売上とクレジットカードでの売上があります。現金売上は毎回毎回手作業で入金をしにいりますが、クレジットは半月に一回振り込まれるので、そのときに全部、売掛金を消し込みます。取引内容から勘定科目を自動で推測してく

れ、回数を重ねることによって学習してその精度も増していくので、日々の取引登録はとても単純な作業で済みます。収入・支出を登録してしまえば、入金され次第、消し込み候補が表示されるので、問題なければ [登録] をクリックして消し込み、簡単に帳簿付けが完了します。



### POINT 2

## 「給与計算 freee」で毎月の給与明細を発行、納税書類も自動で作成

**佐藤様**：離島キッチンの従業員はアルバイトを含め 15 名です。その全員分の給与明細は「給与計算 freee」を使って発行しています。

**辻原様**：「給与計算 freee」は、基本情報を入力するだけで、各種税金や保険料を自動で算出してくれるので給与明細が簡単に作成できます。また、源泉徴収した所得税額を申告し納付する際は、必要

な書類を給与明細の金額から自動で作成できます。計算をしなくて済むので非常に助かっています。

**佐藤様**：従業員が入社した際の手続き書類も「給与計算 freee」を使うことで、従業員情報から簡単に作成できるので、今後はそれも活用してみたいと思っています。



### POINT 3

## ワークフローの確立—顧問先が日々入力し、会計事務所が定期的にチェック

**辻原様**：福島会計さんは、freee に紹介してもらいました。日々自分たちで経理処理を行っていますが、わからないことや、ややこしい処理などが発生したときには、都度電話やメールで依頼することもあります。

**福島会計様**：そういった場合も含め、基本はコメント機能を使って、取引にコメントをつけてコミュニケーションをとることが多いです。売上は、ほぼ毎日ご入力いただいているので、適時確認しま

す。また、月次推移などから全体的な数字を見て、異常値があれば内訳を見ますし、月ごとの数字の変動の大きなものなどもチェックします。そして、毎月 1 回お伺いする際に、月次のレポートや、改善点のご提案などを行います。

**佐藤様**：まずグラフで視覚化したもので全体を説明いただいたうえで、細かい数字の話をしていただけるので、非常にわかりやすく助かります。また、私たちの気づかない改善点を指摘してくれて、

改善策を提案してくださるのでとても頼りにしています。





株式会社 りそな銀行  
常務執行役員

## 平山 泰行 様



## 創業時の負担軽減と業務効率化をするために、free と連携し「創業応援パック」をリリース。

interview by free 

りそなグループのりそな銀行は、中堅・中小企業のお客さまの数が多く、特に零細企業を含めて中小企業を手厚くサポートしていくことをずっと標榜してきました。そこに free のクラウド会計ソフトが、わたしたちの創業応援という趣旨にピッタリ合致したことで「創業応援パック」のリリースへと至りました。

### 創業のハードルを下げる free

わたしたちには以前から創業時および創業の前から何かお手伝いできないか、という思いが強くなりました。創業される方は、ビジネスをしたいわけですから、アイデアやビジョンが強くなる方ばかりです。一方、経理に詳しい方はほとんどいないという

も過言ではありません。特に創業時は社員もいないわけですから、そんな中、バックオフィス業務のハードルを下げて、創業の時から本業にフォーカスできるようにしてくれる free はうってつけの存在でした。クラウド会計を使えば非常に簡単に経理が行えることから、わたしたちの目指す方向との親和性が高い。そういうことも含めて

「創業応援パック」を始めたという経緯がありました。

### 業務効率の改善が、お客さまと銀行の相互にメリットをもたらす

りそな銀行では、経営課題解決型の営業を推進しています。そのために重要なことは、商品や融資を売り込むことではなく、お客さまとじっくり話すことです。会話の時間を増やすことで、得られる情報も増え、どんどん経営課題を洗い出す。そして、さまざまな提案につなげて、お客さまの成長をサポートさせていただく。しかし、りそな銀行のお客さまは、メガバンクに比べると中小企業、零細企業が多いため、わたしたち自身が効率化をはかる必要がありました。なぜなら、これまでは伝票を切ったり、預り証をつくったり、ヒアリングしながら資金繰り表の作成をサポートしたり、事務的な時間が相当かかっていたからです。その点、free なら会計をしていれば自動的に資金繰り表もできあがりますし、捻出できた時間はお客さまの課題解決に対する話し合いやご提案といった本来やるべき業務に使えるようになります。その結果、わたしたちの生産性の向上はもちろんのこと、お客さまの生産性も向上し、業績も上がっていくのではないかと思います。

### 会計事務所とのデータ連携を高め、中小企業の支援を加速したい

税務面、会計面では税理士や会計士の方が担い、わたしたちはファイナンシャルやビジネスマッチングの部分でサポートをしています。お互いの役割は違いますが、企業の成長をサポートするという同じ使命がありますから、しっかりと連携できれば、さらにお客さまの成長を後押しできると思います。顧問の税理士、会計士の方は、企業の社長さまにとって一番の相談相手だと思います。会社の全容を把握し、相談相手として信頼されて



いるからこそ、IT 化の支援や経営課題についてアドバイスし、お客さまをよりよく導いていただきたいと思っています。最近では、決算申告も電子データ化していますし、銀行サイドもどんどんそれに対応するべくシステム構築が進んでいます。紙でいただいて、というところからどんどんデータベース化していき、しかもその信頼性が高ければ、銀行から素早い回答を引き出すことが可能になると思います。

これまでわたしたちは、決算書という過去の通信簿を見ていました。年1回決算書をいただき、数ヶ月以内に格付けをし、それに基づいて今後の方針などを決めるわけです。これでは、遅いのです。free のクラウド会計を導入することにより、リアルタイムでデータ連携ができるようになってきます。リアルタイムの情報が得られるということは、たとえば期の途中でも、売上が伸びていけばそれが見えます。成長著しい創業間もない会社や中小企業にとって、半年前というのは昔のことなんです。過去ではなくこれからを見て欲しいというお客さまが多いので、リアルタイムのデータを参照することで、そうしたニーズに少しでも応えたいと思います。リアルタイムのデータを税理士や会計士の方と共有し、free を加えた三者がいっしょにソリューションを考える。そういう機会がもっとあっていいと思いますし、そこから新たなビジネスモデルが生まれるのではないかと思います。

### 創業時に始まり、末永くお客さまとおつきあいをしていきたい

新設法人の 50% 以上\* がクラウド会計を使う時代になったそうですが、創業時はもちろん、創業して軌道に乗ってきた方に対して、どうサポートができるのか、会計面にとどまらず「創業応援パック」をさらに拡充していきたいと考えています。

また、企業は常に良い時ばかりではありません。長くおつきあいをしているお客さまでも、過去 1,2 回は非常に業況の厳しい状況になられた経験をお持ちです。そういう時でも、free を使っているのであれば、しっかりと話し合いやご提案をできる時間を捻出できますし、もし使っていないお客さまであれば、free に変えることで生産性の向上をはかりコスト削減につなげることもできます。創業に始まり、成長過程をサポートし、社長交代時の事業継承や再生の時にもしっかりとご相談に応じさせていただく。節目節目に真に強い銀行として、お客さまを末永くサポートしていきたいと考えています。



## 「創業応援パック」——りそなグループの機能をフル活用し、創業期の企業をサポート



- りそな銀行 / 近畿大阪銀行** 法人向けインターネットバンキングについて、月額基本利用料が 12 カ月間無料
- りそなカード** 創業期の企業を対象とした専用受付窓口を設置
- りそな総合研究所** 会員サービスについて、初年度年会費を無料で提供。クラウド会計ソフト free を提供し、バックオフィス業務の効率化をサポート
- free** 「クラウド会計ソフト free」について、月額基本利用料が 2 カ月間無料

### 株式会社 りそな銀行

所在地：東京都江東区木場 1 丁目 5 番 65 号  
電話：03-6704-2636

資金調達、企業年金、不動産業務などに関する長年のノウハウを活かし、法人の様々なニーズに答えている。また、創業期の方にも創業期の企業が本業に集中できるよう、資金決済業務の効率化や各種相談等の各種サービス等を提供している。



freee 株式会社  
CEO Co-Founder

## 佐々木 大輔

一橋大学商学部卒。大学在学時よりインターネットリサーチ会社のインターンシップ（経営統合を経て、現在はマクロミル）にてインターン／契約社員としてリサーチ集計システムや新しいマーケティングリサーチ手法を開発。卒業後は博報堂にて、マーケティングプランナーとしてクライアントへのマーケティング戦略の立案に従事する。その後投資アナリストを経て、株式会社 ALBERT の執行役員に就任。2008 年に Google に参画、中小企業セグメントにおけるアジアでの Google のビジネスおよび組織の拡大を推進した。その後、freee 株式会社を創業。

# 業界初、<sup>※</sup>法人税申告書までをクラウドで。

申告まで一気通貫、freee の新たなステージが始まる。

## 開発の背景— 法人申告業務の課題解決

坂本：今回の「クラウド申告 freee」を開発するにあたり一番重要なポイントは、会計事務所様の付加価値を高め、リアルタイム経営パートナーとして、より踏み込んだコンサルティングや業務効率化を実現していただきたいという想いです。freee はこれまでも、そのためのソリューションを提供しつづけてきました。しかし、たとえ freee を使って日々の経理業務が効率化していても、その後の申告業務では繰り返しの転記作業などの非効率な作業がいまだに残っていました。これは、既存の会計ソフトと申告ソフトが分断されていることが問題だと考えました。会計ソフトから申告ソフトがワンストップで完全に連携できれば、ソフト間のデータ取込の手間や取込エラーの解消、別表作成時のソフト間の行き来や検算、修正時の別表間の関連性担保や多段階の人によるチェックの手間を大幅に減らすことができます。また、法改正のバージョンアップ作業や知識習得も負担ですし、科目内訳書や事業概況書も含めたすべての作業を電子申告で完結できなかったことも問題でした。こうした課題を、今まで freee で実現してきたレベルの一元管理のもと効率化させ、税務申告まで一気通貫で行えるようにすることで解決できると考えました。

## そこには覚悟と 発想の転換が必要だった

佐々木：「クラウド申告 freee」をリリー

スするには、覚悟ある決断が必要でした。なにしろ、法人税関連だけで、帳票は 200 種以上もあります。これらを法改正等の度にメンテナンスしていかなければなりませんし、その信頼性はゆるぎないものとしなければならないからです。また、freee は従来の申告ソフトとは一線を画する発想をしています。転記等の重複作業も含め、これまでのソフトは、従来の紙の申告書と同じものをつくること自体を目的としていました。しかし freee にとって、申告書の作成は目的ではなくあくまで 1 つの手段です。わたしたちは常々、リアルタイム経営パートナーというコンセプトのもと、会計データのリアルタイム化を行うことで、経営者の意思決定の支援、業務効率化など、会計事務所様が顧問先に対してより高付加価値なサービスを提供できるようにサポートしてきました。そのため、freee にはリアルタイムの会計データがありますから、すでに一元化している会計データを、いかに効率良く、それが必要とされる申告書の体裁にあわせてアウトプットするか、という考え方に改めたわけです。これは発想の転換です。たとえば、Google の G メールは、単にアナログの手紙（メール）を電子化したわけではありません。見落としているメールを教えてくれたり、アーカイブのような概念、メールを検索すると便利だといった新たな発想を付加しました。「クラウド申告 freee」も同様に、会計ソフトと申告ソフトのデータを密接に連携させることで、劇的な利便性の向上を狙っています。要するに、紙を前提とした話でも、申告書の作成を目的とした話でもなく、そこ

バックオフィス業務を最適化するクラウドERP  
請求書、経費精算、勤怠管理、給与計算など

業務

記帳

自動化により業務効率50倍アップ  
特許を取得した人工知能が仕訳を自動作成  
金融機関連携、証券電子保存など

業界初!<sup>※1</sup> NEW  
クラウドで申告まで完結

申告

決算

顧問先のニーズに応える決算報告

年末調整、個人申告、法人申告のクラウドでの申告書作成と電子申告対応を実現

債権債務管理、資金繰り管理など多様なレポートで経営者とのコミュニケーションをサポート

※1 2016年10月 当社調べ

から課題をシフトさせ、劇的な利便性向上を実現したのが「クラウド申告 freee」なのです。

## 法人税申告書をクラウド上で完結 マイナンバー、電子申告にも対応

坂本：「クラウド申告 freee」の目玉は、法人税申告書までをクラウド上で完結できるということです。「クラウド申告 freee」は、「クラウド法人申告」と「電子申告アプリ（Windows 専用）」の2つで構成され、大きく3つの特徴があります。1 つは、まるで法人申告の優秀なコンシェルジュのように、別表の選択から電子申告まで迷わせることなく、ユーザーをナビゲートしてくれることです。具体的には、会計データから必要な別表の提案や数値の自動入力を行いますし、残高試算表など申告書の作成に必要な情報を同一画面上で参照できます。さらに、連携元の項目や計算式を明記してミスのない入力をサポートしたり、税率の更新や最新の法改正による計算の変更等に自動で対応もします。2 つめが、信頼性と業務効率を両立させるアシスト機能です。これにより、金額の編集により他の別表の金額がどのように変化するかマップ感覚で可視化したり、200 を超える項目での徹底的な自動チェック、該当箇所をすぐに見つけられる関連項目検索、コメントや修正履歴等の添付が可能となります。そして最後が業界最多クラスの対応帳票数です。国税は約 200 帳票、地方税は約 60 帳票、納付書は 4 帳票、代理書面は 3 帳票の対応を予定していますから、レアケースに対応できないといっ

た不安はないのではないかと思います。その他では、マイナンバーを使って電子申告ができるということも大きなポイントです。年末調整は、マイナンバーの取扱や電子申告を会計事務所様が自ら行うというケースを新たに追加しています。お客様のマイナンバーを預かることは業務負荷が高い作業なので、そこはテクノロジーを使って負担を下げる工夫をしています。また、個人事業主の申告に関しては、モバイルでもペーパーレスで申告できるような世界の実現をめざしています。個人は当然モバイルで完結できることがこれからどんどん増えていきますし、当たり前になると思いますので、そのあたり前を freee としてつくっていかうと考えています。

佐々木：マイナンバーによって電子申告は飛躍的に普及するだろうと思います。そのため、今回の法人税申告機能に限らず、freee はあらゆるものに対して電子申告に対応していきます。以前なら、個人の確定申告であれば、残念ながらプリントアウトして郵送してもらうのが一番ラクでした。しかし今回、すべて電子申告に対応することで、自分たちの抱えていた大きな矛盾を解消できたと思います。freee は、申告に完全対応したクラウドの業務アプリケーションという、新たなステージを迎えたわけです。会計事務所が必要とするような一般的な申告業務はほぼこれで埋まると考えています。また、この1年ほどの間、会計事務所の方々といろいろな話をさせていただく中で、年末調整の電子申告に対するニーズが多いことがわかりました。これをワンストップで、法人税や所得税に加えて年

freee 株式会社  
執行役員 プロダクトマネージャー

## 坂本 登史文

2010 年京都大学理学研究科修了。大手メーカー系 IT 企業で SAP コンサルタントとして会計システムの開発に従事。その後、データサイエンティストとして DeNA で活躍。2014 年 3 月 freee 株式会社に参画、データ分析チーム・グロースチームの立ち上げ、会社設立 freee のプロデュースなどを経て、現在はプロダクト戦略の責任者を務める。freee の人工知能エンジンの発明者でもある。



※ 2016年10月当社調べ



末調整まで電子申告に対応できるということは、とても意義のあることだと思います。特に給与計算事務、年末調整業務というのは、会計事務所様にしてみたら、積極的に請け負いたい業務ではないはずですから、本筋の業務を圧迫することなく、手間もかけずにできるということはとても重要な事です。free がその部分も含めたワンストップソリューションを提供することで、また新たな価値を提供できると考えています。

### 「年一化」を解消し リレーションを構築する

**佐々木**：会計事務所様が、年に1回しか会社の数字について顧問先と話せないというのは問題だと思っています。年1回、申告の直前にだけ数字を出すのでは、そのときになって経営の実態が見えても思うような提案はできません。しかし、「クラウド申告free」を使うことで、たとえば、毎月決算を行うようになるとしたら、リアルタイムに予定納税額を計算しそれに応じて投資を進言したり、税金の納付に備えた資金繰りなど、提供できる付加価値が増え、顧問先の経営にも入っていくことができます。当然、得られる報酬単価も上がり、顧問先との関係性も深まっ

ていくと思います。今後は従来だと決算の時に慌てて計算しなければならなかったものが、リアルタイムで見える化されるようになり、面倒だったプロセスがかなり簡略化されます。申告書を提出するのは年1回かもしれませんが、リアルタイムダッシュボードとして税務申告ができていれば、そこにまったく違うサービスの仕方があります。より付加価値を提供する方法が多様化すると思いますし、年一化という問題も解決していくのではないかと考えています。もう少し長い目でみる必要がありますが、今回のfreeの進化が、年一化を解決するためのひとつの種になるのではないかと考えています。

### ますます創造的な活動に フォーカスできる

**坂本**：この数字はあっているか、この計算はあっているか。会計事務所様は、数字に責任を持たねばなりませんから、これまでは単純作業を強いられることが多かったと思います。ですが、そのあたりの作業は本来なら人間よりも機械のほうが得意なことです。そして作業から解放された時間を使って、機械ではできない、多くの顧問先を見ている経験があればこそできるアドバイスやコンサルティング

を行う。リアルタイムな数字の計算はクラウドがやってくれる、その数字を次にどう活かすのか、それを考え、経営者の方にアドバイスしていく。わたしたちはリアルタイム経営パートナーと呼びますが、そのような方々をどんどん増やしていけるよう、ますます創造的な活動ができるようサポートしていきたいと考えています。

**佐々木**：free としてまず実現すべきことは、リアルタイムでつなげられる情報の質を高めることです。それによって会計事務所様ではリアルタイムに提供できる付加価値の幅が広がりますし、質も高まります。新たにどのような高付加価値のサービスを提供できるか、あるいは今までは全然違うスケールで顧問先を抱えられる仕組みをつくれるのか、私たちとしてはそれらの点などについてももっともっと突き詰めて考えていかなければならないと考えています。今後は税務の情報までもがfreeの中に集まります。より多くの素材が集まることで、それをベースとした高付加価値なアドバイスやコンサルティングを提供したり、いっしょに事業計画の策定なども行えるようになると思っています。それらの素材を活用してどう料理するかは、会計事務所の皆さまのクリエイティビティによるようになりますが、今後はそれがより求められ

るのではないのでしょうか。たとえば、データをもとに、より経営に対するアドバイスを提供するなど、今までとは仕事の質も変わってくるはずですよ。そうした仕事にワクワクする人たちが現れ、もっといろいろな人が集まる。今後の会計業界は、もっともっと創造的な業界になっていくのではないかと考えています。

### 真のリアルタイム経営パートナーへ

**佐々木**：会計事務所様が顧問先の経営にしっかりと関与していただくために、わたしたちは、データとデータをつなぐことや会計データのリアルタイム化など、会計事務所様がより高いパフォーマンスを発揮するための基盤、高速インフラを提供しているわけですが、それだけにとどまらず、より経営パートナーとなるための武器を提供していかなければならないと認識しています。顧問先といっしょに事業計画をつくる、投資判断をする、KPIを設定するなど、財務全体を知っているからこそアドバイスできる分野にも関わらず、今までは作業に追われて踏み込めなかった部分へ、もっともっと踏み込んでいただけるようサポートしたいと考えています。リアルタイム経営パートナーというのは、ケガを治すお医者さんではなく、より速く走れるようにしてくれるスポーツドクター、コーチのようなものだと思っています。それはどうしたら実現できるかと考えなければならぬときに、判断できるデータをしっかりと持っている。資金調達も同時にしなければならぬようなときでも、足回りよくお手伝い



できる。そのようなことが大事ではないかと思っています。そういう意味でも、リアルタイム経営パートナーが、職域拡大であったり、小さなビジネスをより成長させるきっかけになればうれしく思います。

### これからも会計業界の未来のために

**坂本**：会計業界はこれからどんどん変わり、エキサイティングになると思います。広告やゲーム業界でもそうだったように、デジタル化が進むほどに市場は大きくなっていきます。これからおそらく同じことが、会計業界でも起こっていくのではないかと考えています。こうしたデジタル化の新しい波に乗ることで、会計事務所様は自分のビジネスをより大きく成長さ

せることも、顧問先により自分らしい価値を届けることもできるようになるはずです。わたしたちは、それをサポートするべく、会計業界を盛り上げていきたいと思っています。

**佐々木**：今回、税務申告までを一気通貫で行えるようになりますが、これはまだまだ始まりにすぎません。過去3年半に渡って、free としては、お客様の抱えている課題と向き合ってきました。そしてこの度、法人税の申告や電子申告という1つの大きな課題を克服できたわけですが、それによって様々な面白い可能性が生まれます。これをきっかけとして、さらに新たな付加価値づくりや、今までにないサービスの開発などに、会計事務所様と一緒に取り組んでいきたいと考えています。



#### 参考情報

残高試算表など申告書の作成に必要な情報を同一画面上で参照可能です。

#### 別表 Maps

金額の編集により他の別表の金額がどのように変化するかを可視化します。



#### 会計連携

会計データから必要な別表の提案や数値の自動入力を行います。





# クラウド会計ソフトシェアNo.1！ 3年でユーザー数60万を獲得した 「freee流マーケティング手法！」とは？

会計 freee はリリースしてから約3年で、60万事業所ものユーザー様にご利用いただくまでに成長しました。その成長の立役者となったfreeeのマーケティングチームですが、ユーザーのことを徹底的に理解し、ユーザー1人1人が本当に欲しいと思っている情報を、ありとあらゆる手段を使って届けることを基礎としています。

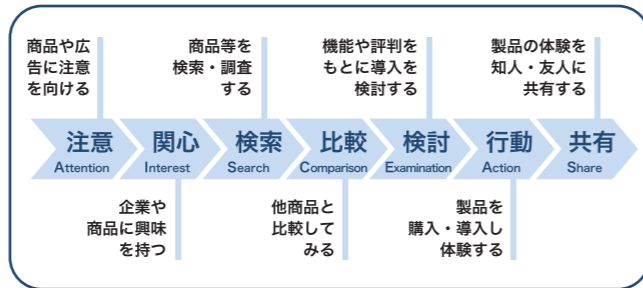
諏訪：freeeのマーケティングチームはリリース当初より、ユーザーの課題を徹底的に理解し、それに対してカスタマイズされたコミュニケーションを行うということを意識してきました。現在のマーケティングは、潤沢な予算を用意して大規模なプロモーションをかければよいわけではありません。freeeのユーザーは個人事業主、中小企業の経理担当者・経営者となるため、BtoC製品の購買行動で見られるような“衝動買い”は非常に起きにくいと考えられます。購買のためには、右記の購買モデルに見られるように、他の製品との比較検討や社内での調整、稟議の決裁など様々なプロセスを経る必要があります。そうした特性を踏まえて、オンライン・オフラインを問わない継続的なコミュニケーションの創出と関係構築を行っていくことが重要です。そのためマーケティングで重要なことは、「個別にカスタマイズされたコミュニケーションをする」ということです。そのために必要なことは、ユーザーの本質的な課題を理解すること、その課題に対して本質的な情報を提供すること、適切なタイミングと手段で提供することといえます。こういったユーザーの課題に着目し、パーソナライズされたコミュニケーションを行うマーケティングを弊社では「マジ価値マーケティング」と呼んでいます。



## 諏訪 拓生

楽天・サイバーエージェント・サイズミックテクノロジー社でオンラインマーケティング業務に長らく従事。2016年よりfreeeのマーケティングチームに参画し、現在はオンライン広告運営、SEO業務等をリードしている。

## ○購買行動モデルの例



freeeは比較・検討の材料として、様々な無料コンテンツを提供しています。またコンテンツをダウンロードしたユーザーにとって有益な、より詳細な情報を、様々な形でお届けできるような取り組みも行っています。



中山：freee流マーケティングを実践する方法として、「経営ハッカー」というオウンドメディアを運営しています。経営ハッカーでは、ビジネスを立ち上げ、日々運営し、事業継続に奮闘する多忙な経営者・個人事業主の方々に役立つ情報を発信しています。業界・業種・会社規模を問わず避けて通ることができないバックオフィス業務に費やす労力をなるべく下げ、「本業にフォーカスできる」環境を創ることを目的としたメディアです。経理・税金にまつわる記事はもちろん、便利なクラウドツール、働き方、ときには起業された方のインタ

ビュー等、様々な記事を公開しています。基本的には毎日1記事は公開しており、非常に多くの方に興味・関心を持っていただいております。その結果、今では約300万PVを誇るオウンドメディアにまで成長いたしました。



## 中山 順司

ソフトバンクに新卒入社し、マーケティングと営業に携わる。2000年にネット業界に転身。その後始めた個人ブログがきっかけで、ブログソフトウェアベンダーのシックス・アパートに入社。代表作「お父さんがキモい理由を説明するね」は、2日で100万PVを突破し、様々な媒体で紹介されている。freeeには2016年より参画し、経営ハッカー編集長として経営ハッカーのメディア運営等を手がけている。

# freeeのパートナーの輪はさらに広がっています



freeeは金融機関との連携を強化し、freeeユーザーが創造的な活動にフォーカス出来るよう、金融機関と各種サービスを提供しています。

金融機関  
×  
freee

連携サービス  
**PICK UP** 事例

金融機関専用の  
プロダクトをリリース



freeeの提供する5分で会社設立ができるサービス「会社設立 freee」と、みずほ銀行の提供する「法人口座開設ネット受付」サービスの連携を開始し、ワンストップで法人口座の開設が可能に。起業時の多忙な時期に経営者がより本業にフォーカスできる仕組み作りを推進する。



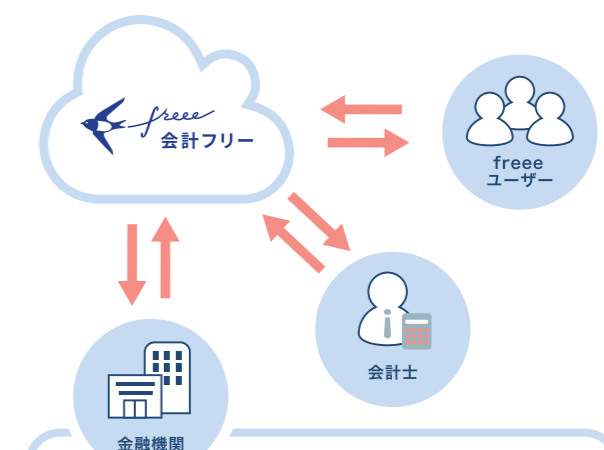
北國銀行ホームページ上のバナーを通じて freee の利用申込みができ、北陸地方の中小企業向けに行員がバックオフィス業務改善のコンサルティングを行っている。また、創業融資でも freee を活用しており地域企業の生産性向上と地方創生につなげている。



りそなグループのりそな銀行と近畿大阪銀行が新たに提供を開始する「創業応援パック」に freee が参画。法人向けインターネットバンキングの利用料を12ヶ月間無料、法人向けクレジットカードの優遇発行や、クラウド会計ソフト freee の2ヶ月無償提供等の特典となる。



鳥取銀行のインターネットバンキングサービス「とりぎん砂丘ダイレクトサービス」上で、「クラウド会計ソフト freee」とのデータ連携に必要な機能がパッケージ化された「freee 提携プラン」の提供を開始。山陰地方の地方創生につなげている。



## 金融機関アドバイザーアカウント

金融機関アドバイザーアカウントは、freeeユーザーが希望する場合に、ユーザー・会計事務所・金融機関での効率的なデータ共有を行うためのもの。連携により、金融機関による freee を活用した金融サービスの検討が進み、ユーザーの課題解決をサポートするサービスや、リアルタイムに融資などが受けられる環境を整備している。また、このアカウントを活用し、10月25日から JNB が最短即日審査・翌日実行の freee ユーザー専用融資を開始しました。



# 税理士・会計士の皆様と考える 中小企業創業支援セミナー



中小企業の経営支援のためにできることは何か、経営者の右腕である税理士・会計士の皆様とともに考えるセミナーを開催いたします。日本の中小企業を元気にしたい皆様、是非ご参加ください!!

## プログラム | 日時：2016年11月18日(金) 15:00 ~ 18:00

### 第1部 <講演>

#### これは使える!クラウド会計ソフトの活用法

創業すぐに必要となる経理・財務業務。煩雑になりがちな業務の省力化をご提案します。わかりやすいデモンストレーションの実施を予定しています。

講師：ひょうご税理士法人 木戸邦彦様 / free 株式会社 社員

### 第2部 <パネルディスカッション>

#### 金融機関はここを見る! 創業者の事業計画書のポイント

創業企業に対する金融機関の見方について、また今後の支援策のあり方について、パネルディスカッション形式で討議します。

パネリスト： 日本政策金融公庫 国民生活事業本部 大阪広域営業推進室 上席室長代理 大前 文人様  
大阪産業創造館 スタートアップ支援チームプランナ 浜田 哲史様  
ひょうご税理士法人 代表 妹尾 芳郎様  
りそなグループ ビジネスプラザおおさか 地方創生アドバイザー 寺川 喜夫様

ファシリテーター：りそな銀行 コーポレートビジネス部 マネージャー 早川 貴之様

### 第3部 <懇親会>

#### 税理士・会計士の皆様と考える中小企業経営支援のありかたについて

第1部、第2部講演者と参加者の皆様との自由な懇親会です。是非、中小企業経営者の右腕として活躍される皆様のご意見をお聞かせください!

#### <会場>

#### ビジネスプラザおおさか

大阪府中央区備後町2-1-1 第二野村ビル4階

最寄り駅：地下鉄堺筋線・中央線「堺筋本町駅」(17出口) 徒歩3分  
地下鉄御堂筋線「本町駅」(3出口) 徒歩7分

りそな銀行と近畿大阪銀行が共同で運営し、公共団体、大学・研究機関、企業、地域社会の皆様と、地域社会が抱える様々な課題を解決し、新たなビジネスへと発展させていくための拠点です。

主催： 共催：

### 実務経営 × free セミナー



日本最大級の採用メディアを運営する人材ドラフト、会計事務所のブランド戦略をリードする CELL VISION、会計分野の新しいソリューションをリードする free 株式会社のノウハウを集め、会計事務所の組織づくりを多角的に考えるセミナーを実施いたします。

- 第1部 売り手市場の中で、どんな会計事務所が採用で成功できているのか  
講師：人材ドラフト様
- 第2部 あなたの事務所のファンをつくるブランディングセミナー  
講師：CELL DIVISION様
- 第3部 freeeオフィス見学会・懇親会

開催日時：2016年12月12日(月) 14:00~17:30 (開場13:30)  
開催場所：freee株式会社五反田本社 (東京都品川区西五反田2-8-1 五反田ファーストビル9F)

※ 順序・内容は一部入れ替わる可能性があります。予めご了承ください

### お申込方法



WEB

税理士・会計士の皆様と考える  
中小企業創業支援セミナー  
<http://bit.ly/2eLocCQ>  
実務経営 × freee セミナー  
<http://bit.ly/2f3wbF0>



メール

参加希望セミナーの名称、事務所名、人数をご記載の上、ご連絡下さい。

[advisor@freee.co.jp](mailto:advisor@freee.co.jp)



chatwork

下記アドレス宛にコンタクト申請の上、参加希望セミナーの名称、事務所名、人数をご連絡下さい。

[advisor@freee.co.jp](mailto:advisor@freee.co.jp)



はがき

同封のはがきに必要箇所をご記載の上、セミナー開催日の1週間前までに投函下さい。